

## 第35回全国数学教育学会研究発表会 全体会企画要領

研究担当理事 岩崎 浩〔上越教育大学〕  
同 溝口達也〔鳥取大学〕

### <全体会テーマ>

ヒラバヤシ数学教育学の継承と発展

### <全体会の趣旨>

われわれ全国数学教育学会の会員は、数学教育学研究を進めるにあたり、これまで直接的、あるいは間接的に故平林一榮先生の研究の影響を受けてきた。それは先生の卓越高邁な学識に裏打ちされた先見性の高い見識であり研究であった。それをヒラバヤシ数学教育学と呼ぶならば、それは、本学会の数学教育学研究を特徴づけ、かつ方向づける1つの重要なアイデンティティーを形成しているといっても過言ではないであろう。また、それは同時に、日本の数学教育実践及び数学教育学研究の現状を批判的に捉え、常にそれを健全なものへ正す指針となるものでもあった。

本企画は、会員各位の現在の数学教育学研究の中に生き、その基盤となり、方向づけているヒラバヤシ数学教育学を明らかにし、それらを共有することで、本学会の数学教育学研究を特徴づけ、かつ方向づける1つの重要なアイデンティティーを再確認することを意図している。それは、平林先生から受けた教えを単に回顧することでは決してない。むしろ、本学会の未来に向けて、日本の数学教育の改善とさらなる発展のために、本学会固有の「学としての数学教育学研究」のあるべき姿とその発展の方向について議論し、考えるためである。

### <全体会の進め方>

今回は、上記趣旨を実現する具体的な最初の試みとして、『認識論』『教材論』『歴史研究』という3つの領域を柱として議論を始める。それぞれの領域に議論を推進するオーガナイザーを以下の通り置く。オーガナイザーは、各領域に関わって全体基調発表を行うとともに、各領域に関連する研究者数名を募る。(第35回 | 2012年1月)

- ・『認識論』領域：岩崎 浩 (上越教育大学)
- ・『教材論』領域：國本景亀 (高知大学)
- ・『歴史研究』領域：山本信也 (熊本大学)

次いで各領域ごとにオーガナイザーを中心とするワーキンググループを形成し、論文を介して議論をすすめる。(2012年1月～6月)

最後に、各オーガナイザーを司会として、数名の研究者(シンポジスト)による提案発表と議論を行い、その結果は、論文集等として出版する。(第36回 | 2012年6月)

#### ① 第35回研究発表会全体会：

各領域のオーガナイザーによる全体基調発表とWG参加者の募集

#### ② 第36回研究発表会全体会：

各領域に分かれて、各オーガナイザーを司会とし、数名のシンポジストによる提案発表と議論